

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	個別療育専門 フロルstudy 三国本町教室			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 12日 ～ 2025年 3月 30 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2025年 2 月12 日 ～ 2025年 2月 22 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別なので1対1で行うことから1人1人の児童にあった支援が出来る ・同席のため保護者様のニーズを常に聞くことが出来る ・専門資格を持っている職員がそれぞれの分野からのアプローチが出来る	保護者様に声をかけ、子供の様子だけでなく、保護者様の様子も指導員と把握できるように努めている	相談支援も要望がある方には行っているが、保護者様にこちらから様子を見ながら話をし、それが子どもの支援にもつながるようにしていきたい
2	個別ではあるが小グループの支援を行うことにより、普段は見れない子供たちの一面や、プログラムを行うことが出来る	普段は出来ない内容を考えて行ったり、時には縦割りの年齢で異学年と関わるなどの経験が出来るようなことをねらいにして活動をしている	ご希望が多いが個別も行うため、行う月が限られてしまうこともあるので、出来るだけ継続しつつ、たくさんの方にご参加できるように考えていきたい
3	年齢が幅広くご利用いただける	・年齢の低いご利用者様もおられることで提供する支援内容も段階を追って提供することが出来る ・保護者様に支援内容をご自宅に持って帰っていただき、日常の中で取り入れるものも提供できる	それぞれの利用者様に適した支援内容を提供するために職員の研修を多く取り入れ、事業所内でのミーティングの充実を図る

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別でそれぞれの支援を行うため保護者様同士の交流が少ない	・保護者様同士の関わりを持ちたいという方やあえて関わりが苦手な方もおられるのでそのバランスを考え、計画しなければいけない ・個別で来ていただく以外の時間で考えるとそれぞれのご家庭のリズムがあるので難しい場合がある	硬い雰囲気のような集まりだけでなく、茶話会のような自由に話ができる保護者様同士の交流を行ったり、相談支援員が間に入ってサブ的な形で会が持てるようにしていければと考えている
2	支援時間の時間が決められているため、支援によっては次の方との時間がぎりぎりになってしまうことがある	支援内容を充実したものにすることはもちろん、時間的に余裕をもった支援にしていこう	それぞれのお子さんに合った支援内容を提供し、限られた時間を有効に使って支援を行い、保護者様にも支援開始時間、終了時間をお伝えしご理解をいただく
3			